

R君のこと

彼は、祖父が日本人の日系3世フィリピン人である。中学3年の11月に、親の都合で来日した。ところが、某市独自で日本語指導するとのことで、弟と妹は小学校就学が認められたものの、彼は日本語が全く分からぬまま中学校卒業資格取得だけのために（勿論、親の都合で来日したからそれだけの理由だが）某市立W中学校に就学することが認められず、私達が運営するふじのくに中央日本語学校に来た。後のNHKの取材では某市教育委員会は、それはR君側の取り違いである、と否定したが。

驚異的な彼の努力で僅か半年で「みんなの日本語初級」のⅠとⅡの2冊を履修、日本語の日常会話を習得した。その後、中学3年の11月来日の彼は、フィリピンでも日本でも中学校を卒業していないため、高校進学のためには公立高校入学試験並みの5教科の中卒認定試験に合格しなければならない。そのため彼は、日本の中学3年生が学習する「夏期講習」と「冬期教習」のテキストで、英語・数学・国語・理科・社会の5教科の学習に入った。しかし、「学習方言」の壁が立ちはいなかった。例えば、「数学方言」で「線をひく」の「ひく」は、pull? subtract? run? draw? slide? saw? grind? どれかが分からない。「国語方言」に至っては、「下線部を読んで」? エッ? したのせんってどうやって読むの? 勿論、古文、漢文に、和歌や俳句もある。社会では、フィリピンでは自国の歴史しか勉強しなかったから、日本の歴史だけでなく、しかも関連する外国の歴史も加わるので、勉強が大変である。

彼には、読み方が分からない学習言語は、電子辞書で手入力して読み方を調べ（今はスマホで写真を撮れば翻訳が出るらしい）、意味を英語に翻訳して理解する、という自立学習の仕方を教えた。彼は調べた学習言語はすべてノートに書き込み、覚えた。すごい量だったが、ノートに書く覚えやすい、と彼は言った。「学習方言」はその都度、私が電子辞書片手に英語で教えた。彼は5カ月間で2冊の夏期・冬期講習のテキストをやりきった。

そして当校に入学して11ヶ月後の10月、中卒認定試験を受験し、英語・数学・理科・社会の4科目に合格した。見事だった。高校での学習を考え、合格した科目も含め、レベルを上げた夏期・冬期講習のテキストで、再び学習を始めた。1年後の10月25日、残りの国語の中卒認定試験に再挑戦した。12月中旬に、合格通知が届いた。彼は嬉しそうに、その合格通知書を見せてくれた。

しかしながら、某市独自で日本語指導するのならば、市は否定したが、2年前の11月にW中学校就学をさせて頂ければ、こんなに優秀な子が高校進学のために2年も足踏みをすることがなかった、と悔やんだ。しかし、捉え方を変えれば、市が彼にそんな試練を与えたことが、高校進学のみならず、後の日本の専門学校卒業までの学力を付けさせてくれた、ととれる。そう考え、彼に納得させた。彼は勿論、翌年の3月の公立高校入学試験にも合格し、年齢制限がない県立高校単位制課程に進学した。この快挙は、新聞にも取り上げられた。

その後彼は、前述の通り専門学校にも進学し、卒業して日本で働いている。ただ、大変申し訳ないが、その後も某市の中学3年生が、日本語能力が不十分で高校進学できずに当校に

入学して来る。当校では、最初にR君に教えた自立学習の仕方を教え、1年かけて日本語と教科を指導し高校に進学していく実態を、某市に観て頂きたい。